

## 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	十日町市立十日町中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	22
生徒数	104	86	103	4	297	

## 実践研究の概要

## 1 研究主題

「確かな学力」の向上を目指して  
～ 習熟度別学級（数学、英語）における学習指導と評価のあり方の工夫～

## 2 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

中学1、2年生・数学、英語

数学と英語は、積み上げ教科であり、学年が進むとともに習熟度で差がつきやすいという点があり、習熟度別学級を設けることにより、生徒の習熟に応じた必要な学力を身につけさせることをねらいとした。

## (2) 年次ごとの計画

平成14年度

1年次テーマ 習熟度別による少人数指導のための教材開発

## 研究仮説

習熟度別学習指導において、生徒の習熟に焦点を合わせた教材を開発し、生徒に示せば生徒の理解は向上し、学ぶ意欲も向上するであろう。

## 研究内容

1、2年生の数学科、英語科における習熟度別指導による学級編成の1年目である。1年次はそれぞれの学級における教材開発を通して「学習指導の改善」について検討を加えていきたいと考えている。地域の小中学校と連携し、より多くの教材の蓄積を行っていききたい。年度末には生徒のアンケートを見ながら成果と課題を具体的にし、次年度の研究内容と方法につなげていく予定である。地域協議会を開催し地域の方々に実践を報告し、指導と助言を得ながら、研究主題である「確かな学力」の向上を目指していきたい。

## 研究方法

## 教材の開発

- ・ 学ぶ意欲を引き出し、確かな学力を身に付けさせる教材の開発。

- ・習熟度別に用いたワークシートのちがい、成果と課題を明確化。

#### 連携校、地域小中学校との実践

- ・2学期に、小学校の授業を見に行ったり、小学校の先生に中学校の少人数授業を見てもらい双方の現状を把握する。英語に関しては、共同での授業実践に向けての打ち合わせをする。
- ・地域の小中学校にも少人数指導、個に応じた指導に関わる教材開発を依頼。

#### 客観的データに基づく、生徒の実態の把握

- ・NRTを4月実施、現在の生徒の実態を把握する。
- ・生徒へ習熟度別指導に関するアンケートの実施。

#### 成果の普及

- ・平成15年1月30日(木)地域協議会で報告

平成15年度

2年次テーマ

習熟度別による少人数指導のための指導方法の工夫改善

研究仮説

習熟度別学習指導において、生徒の習熟に焦点を合わせた単元構成を工夫し、生徒に示せば生徒の理解は向上し、学力定着に結びつくであろう。

研究内容

それぞれの学級における単元構成の工夫改善を通して「学習指導の改善」について検討を加えていきたいと考えている。地域の小中学校より、多くの単元構成に関する資料の蓄積を行ってきたい。地域協議会の開催に合わせて、実践を公開し、助言を得ながら、研究を修正していきたい。年度末には、生徒のアンケートや前年度との学力テストの数値を比較しながら2年次の成果と課題を具体的にし、最終年度の研究内容と方法につなげていく予定である。そうした過程を経ながら、研究主題である「確かな学力」の向上を目指していきたい。

研究方法

#### 指導方法の工夫改善

- ・学ぶ意欲を引き出し、確かな学力を身に付けさせる指導方法や単元構成の工夫改善。
- ・習熟度別における単元構成、指導方法のちがい、その成果と課題を明確化。
- ・数学、英語のTTによる成果と課題を明確化。

#### 連携校、地域小中学校との実践

- ・2学期に習熟度別の研究授業を行い、単元構成、指導方法の工夫について協議会をもつ。
- ・連携校の小学校では、算数と国際理解の研究授業をしてもらい、単元構成、指導方法の工夫について協議会をもつ。
- ・地域の小中学校への実践依頼。少人数指導、個に応じた指導に関わる指導方法の工夫や単元構成の改善、成果と課題の考察等。

#### 客観的データに基づく、指導方法の工夫改善

- ・NRTを4月実施 中教研調査問題を5月実施(全生徒対象)

- ・結果分析を行い、前年度との比較を行う。その結果を考察し、1学期中に指導方法改善点を具体的にし、2学期より改善実践を行う。
- ・生徒へ習熟度別指導に関するアンケートの実施。

#### 成果の普及

- ・中間発表会 平成15年11月14日(金)

平成16年度

3年次テーマ

習熟度別による少人数指導のための指導と評価の一体化

研究仮説

習熟度別学習指導において、生徒の習熟に焦点を合わせた指導と評価の一体化を工夫し、生徒に示せば学ぶ意欲は向上し、学力向上にも結びつくであろう。

研究内容

それぞれの学級における指導と評価の工夫改善を通して「指導と一体化した評価のあり方」について検討を加えていきたいと考えている。地域の小中学校より、多くの評価に関する資料の蓄積を行っていきたい。地域協議会の開催に合わせて、実践を公開し、助言を得ながら、研究を修正していきたい。年度末には、生徒のアンケートや前年度との学力テストの数値を比較しながら最終年次の成果と課題を具体的にし、今後の研究内容と方法につなげていく予定である。そうした過程を経ながら、研究主題である「確かな学力」の向上を目指していきたい。

研究方法

指導と一体化した評価の推進

- ・単元別観点別評価表による、単元の指導と評価の生徒への提示。
- ・単元テストの開発と実施による単元ごとの適切な評価。
- ・「学びの記録」ファイルによる学習記録の蓄積、評価への活用。
- ・習熟度別における指導と評価のちがいを、その成果と課題を明確化。
- ・生徒へ習熟度別指導に関するアンケートの実施。

連携校、地域小中学校との実践

- ・2学期に、当校と連携校の小学校双方で研究授業を行い、指導と評価の一体化の工夫について協議会をもつ。小学校の研究授業は算数と国際理解。
- ・地域の小中学校への実践依頼。少人数指導、個に応じた指導に関わる評価方法の工夫、成果と課題の考察等。

客観的データに基づく、指導方法の工夫改善

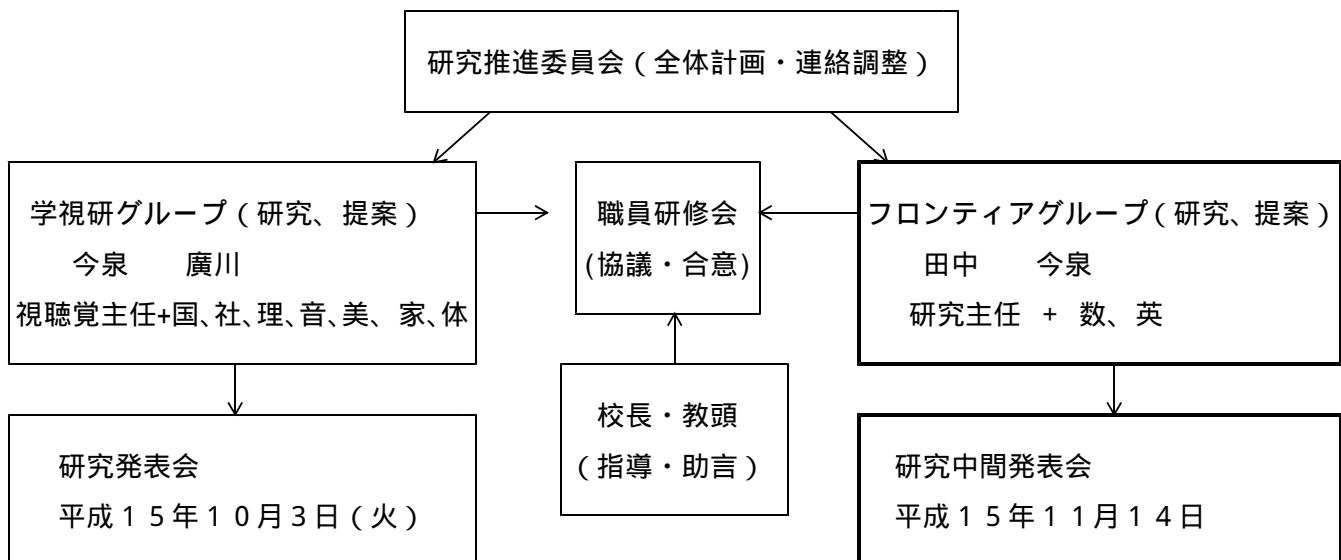
- ・NRTを4月実施 中教研調査問題を5月実施(全生徒対象)
- ・結果分析を行い、指導方法改善点を具体的にし、2学期より改善実践を行う。
- ・生徒へ習熟度別指導に関するアンケートの実施。
- ・3年間のデータの変容についても考察する。

成果の普及

- ・研究発表会 平成16年11月下旬(案)

### (3) 研究推進体制

当校は平成15年度に学校視聴覚教育研究大会とフロンティア中間報告会の2つの研究会が行われる。その2つの研究会を担当教科のみでなく全校体制で行うために校内教科部を「学視研グループ」と「フロンティアグループ」2グループに分け、下記の研究体制を作り現在推進している。原則的には、それぞれの担当者が推進していくが、検討や作業が必要な場面にはグループ全員で分担を担う。ただし、実践集約、研究会当日に関わる作業分担は全教科、全職員で行う。



#### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

###### (1) 第2年次の研究の実際

学力向上フロンティアスクール用中間報告資料を参照。

###### (2) 成果

###### 習熟度別授業における学習意欲について

生徒のアンケートによると、授業の理解度は「わかりやすい」、「ややわかりやすい」が英語では約70%以上を示している。授業の満足度では「満足」「だいたい満足」が約60%以上である。昨年の補充コースをさらに細分化し、昨年開発したワークシートを効果的に利用した成果といえる。数学では授業の理解度は約60%以上の割合を示している。特にジャンプコースでその割合が高い。授業の満足度に関しては「いつも満足」「だいたい満足」がジャンプコースが約70%であるもののホップクラス、ステップクラスでは50%を割っている。生徒の感想をみると「わかりやすい発問」、「落ち着いた雰囲気での授業」、「学力の向上」を求めていることがわかる。今後これらの部分の見直しを行う必要がある。今後また同じアンケートを定期的に行い、数値の変容を考察していきたい。

###### 生徒の学力について

4月に行われた標準学力テストをみると学力偏差が現3年生の英語では「47.6」から「48.7」と上がっている。数学でも「47.7」から「48.8」と上がっている。昨年度の教材の開発の成果と考えられる。2年生では英語は「48.2」であった。数学は「52.0」から「48.7」と下がってしまった。生徒のアンケートの「わかりやすい・だいたいわかりやすい」の割合が高い反面、「学力があまり変わらない」と答える割合が多いことと関連性があると考えられる。学力の定着が十分でない領域や単元の指導計画を見直し今後の指導法の改善を図りたい。今年度の学力については1学期定期テス

トと2学期定期テストの比較分析を行い今年度のまとめに記載したい。また、今後の得点データに着目していきたい。1年間における学力の客観的なデータの変容は、来年4月の行われる標準学力テスト(N R T)で得られる。その結果は3年次の報告に記載する予定である。

#### 習熟別の指導方法の工夫改善について

英語、数学とも、生徒がどのコースを選択しても身につけさせなければならない学力を設定した。具体的には単元の基本単位、評価、授業で扱う課題など共通な部分を設定し、それに対する扱い方の違いから3コースの指導法の違いが明確になってきた。ホップクラスでは操作活動やワークシートを用いて学習内容を理解することに授業の力点をおき、さらに反復練習を重視した。ステップクラスでは学習内容の定着を図るために類題をあつかう場面を多くした。また、ジャンプクラスでは学習内容を発展的にあつかうことで応用力を向上させる場面を多くした。

#### 生徒の習熟度別学級の選択について

2年生にとって習熟度別授業は2年目となり生徒に定着してきている。コースを自己選択する際には、1年次の定期テストの結果や自分の得意・不得意などから「自分に合ったコース」を選択するように4月のオリエンテーションで説明した。また、習熟度別授業の最初の2週間程度の試行期間を設け、生徒自らの判断でコースを変更できるようにした。本年度の得点分布グラフを見ると前年度のクラス内の学力差も小さく、ほとんどの生徒が自分に合ったコースを選択するようになり、友達関係で選択することは少なかった。一方で数学においては学習領域が「数と式」から「図形」に代わったときに生徒の中からクラスのコース変更の希望があった。計算は得意であるが図形になると苦手な生徒や逆に図形が得意で計算が苦手な生徒もいる。昨年度以来、コース間の移動は特例を除き認めていなかったが、来年度はもう少し柔軟に考え、通年で同一コースでなく、単元ごと、学期ごと、または領域ごとにコースの再編成をすることを検討したい。1年生は1学期は少人数学級で授業を行い、2学期から習熟度別少人数学級で授業を進めている。2年生に比べると自分に合っていないと思われるコースを選択している傾向があった。しかし、2週間程度の試行期間で8人のコースの変更があり、試行期間を設けることは、選択の自己修正が行われる利点がある。昨年度は集団に対して不適応な生徒が少数ではあるが発生した。試行期間で早めにコース変更を認めることで今年度はまだ不適応生徒は発生していない。

#### 習熟度別授業のコース設定について

昨年度は「補充クラス(ステップ)」、「発展クラス(ジャンプ)」の2コースを設けたが、補充クラスにおいても授業内容についていけず、学力が向上していかない、または低下している生徒がいた。この事実から今年度は、2つのコースに加えて、基礎クラス(ホップ)を設け、A学力からケアしていく基礎クラスを設けることにした。コースを増やしたことでクラス内の習熟度の差がさらに小さくなり、教師にとって指導のポイントがさらにしぼりやすくなり、生徒にとっても自分に合った指導を受けられるようになった。特にホップクラスの生徒は概念形成や習熟に時間をかけられるようになり、一人一人のつまずきに対応できるようになってきた。

## 2. 今後の課題

### (1) 習熟度別授業のよさと課題

習熟度別少人数学級は、その形態から教師と一人一人の生徒とのやり取りが多くなる。生徒自身が共に学ぶ場面を大切にす視点から、習熟度別少人数学級の中にいかに効果的に「共学び」の場面を組み入れるかが今の課題である。習熟度別少人数授業は今までの授業に比べると生徒一人一人の実態がわかりやすく、つまずきのある生徒の対応がしやすい。しかしながら、習熟度別少人数授業だけでは限界があり、選択教科や放課後の補充学習、あるいは宿題等で補充の必要がある。また、極端に学習意欲の

乏しい生徒がいる場合は習熟度別少人数授業よりもT T授業で一人の教師が個別指導を行い、もう一人の教師が全体の学習を進めていくことも有効と考えられる。

## (2) 3年次の習熟度コース設定について

習熟度別授業をはじめて来年度で3年目になる。生徒の間にも習熟度別授業が定着してきている。3年生になると本校は学級単位の授業に戻っているが、今後、3年生の授業にも習熟度別授業の導入が条件的に可能かどうか検討していきたい。

### 学力把握のための学校の取組

標準学力テスト(NRT)を平成15年4月に、県中教研の調査テストを5月に実施し、結果を分析した。客観的な基礎データとして授業構想をする際に活用した。習熟度別指導に関する生徒アンケートを実施し(10/5)、昨年度のデータと比較して今年度の実践の総括をする際に活用した。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

今年度は、平成15年11月14日に中間発表会を行った。公開授業を行い、研究内容、成果と課題を分科会で協議をして、参加者から指導と助言を仰ぐことができた。また、研究連携校との授業見学等による双方の実態の把握を行うために下記の4つの活動を行うことができた。

- ・学区小学校児童の中学校授業見学(7/7)
- ・十日町小学校、東小学校との算数数学部会(8/22)
- ・十日町小学校での授業見学(12/2)
- ・東小学校での授業見学(1/22)

今年度は月一度の割合で研究主任同士の会議をもち、共同で研究授業を推進している。また、算数・数学科主任の部会では学力分析の情報交換を行い、児童生徒の学力の実態把握も大きく進んだ。

地域の小中学校との連携として下記の2つの実践を行うことができた。

- ・十日町・中魚沼地域学力フロンティア事業第1回地域協議会(6/18)
- ・地域の小中学校に少人数指導、個に応じた指導に関わる指導法の工夫の実践レポートを依頼(9/26)

第一回の地域協議会で2年次の研究計画を確認し、フロンティア指定校の支援策と普及策を話し合った。その中で地域の小中学校への少人数指導、個に応じた指導に関わる指導方法の工夫実践の依頼をした。依頼を9月に行い、地域からの実践が多数集まった。集まった地域からのレポートを、習熟度別・少人数のための指導実践資料集としてまとめて、地域に資料を提供した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 【新規校・継続校】            | 14年度からの継続校     |
| 【学校規模】               | 10～12学級        |
| 【指導体制】               | 少人数指導 T・Tによる指導 |
| 【研究教科】               | 数学 外国語         |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有              |

学力向上フロンティアスクール用中間報告資料 (十日町市立十日町中学校)  
 本校における2年次の習熟度別指導の方針

教科・学年	数学、英語 1、2年生		
ねらい	数学と英語は、積み上げ教科であり、学年が進むとともに習熟度で差がつきやすいという問題点があった。習熟度別学級を設けることにより、その教科が苦手な生徒にとってもわかりやすい「基礎的な指導」、基本の定着と発展への足がかりとなる「補充的な指導」発展へ高い能力をもつ生徒にとっても満足いく「発展的な指導」を展開するなど、生徒の習熟に応じた必要な学力を身につけさせることをねらいとする。		
設ける習熟別コース	2学年 基礎クラス(ホップ) 補充クラス(ステップ) 発展クラス(ジャンプ) の3コース 1学年 補充クラス(ステップ) 発展クラス(ジャンプ) の2コース		
少人数クラス編成	各学年とも34人以下の少人数学級になるように編成する。今年度は 2学年 3クラス 3クラス、1年生 3クラス 4クラス とする。		
コース決定の仕方	オリエンテーションを行い、授業内容を生徒に説明した後、生徒にアンケートを取る。そこでの生徒の希望人数により、コース別のクラス数を決定する。同じコースで複数クラスになる場合は、テストの成績等を参考にクラス同士の成績プロフィールがほぼ同質になるように編成する。(試行期間は2週間とし、それ以降のクラスの変更は認めない。)		
コース別クラス数と生徒数	1年生数学	補充×2クラス(補充 24人、補充 29人) 発展×2クラス(発展 31人、発展 20人)	使用教室 1-1 数発1 英発1 1-2 数発2 英補1
	1年生英語	補充×2クラス(補充 25人、補充 24人) 発展×2クラス(発展 27人、発展 28人)	1-3 数補1 英発2 1集 数補2 英補2
	2年生数学	基礎×1クラス(23人) 補充×1クラス(32人) 発展×1クラス(31人)	使用教室 2-3 数基 英基 2-1 数補 英発 2-2 数発 英補
	2年生英語	基礎×1クラス(19人) 補充×1クラス(34人) 発展×1クラス(33人)	
オリエンテーションと授業開始	2学年 4月にオリエンテーション 5月から授業開始 1年生 7月にオリエンテーション 9月から授業開始		
生徒の学級間の移動	原則として認めない方針。		
テスト、評価	基礎クラス、補充クラス、発展クラスで同一のテストを行う。評価規準と基準も同じ。		
授業内容	ねらいを達成できる内容を教科で立案、実践する。ただしどのクラスでも共通の内容を必ず設ける。全体のテスト、評価はその部分でのみ行われるように配慮する。		

前述した方針に基づき、2年生は4月から、1年生は9月から習熟度別授業がはじまった。到達目標が同じであっても各コースの学び方の違いを数学科、英語科のそれぞれの部会で話し合った。習熟度別授業の指導の違いに重きをおいたオリエンテーションを2年生は4月、1年生は7月に行った。2年生は第2希望まで取り、その希望内容になるようにクラス編成を行った。また、編成ではホップクラスの人数をなるべく少なくすることも考慮して行った。ホップクラスでは反復学習や具体物などを利用した操作活動を取り入れた指導を、ステップクラスでは標準的な内容で基本から応用まで広く扱う指導を、ジャンプクラスでは応用的な部分の時間を確保した指導を実践した。単元ごとの習熟度別の指導計画を実践と平行して作成しているため、指導が場当たりのなところもあった。成果と課題をまとめて、今後の指導の工夫改善に生かす。

## 英語科の取組

### 1 第1年次の成果と課題

#### (1) 授業を充実させる教材、ワークシートの蓄積

補充、発展クラス共に、単元ごとに教材を作り分けて授業を行った。授業の中で補充クラスでは読んだり、書いたりする反復練習が効率よくできている。発展クラスでは課題(タスク)に沿って、自分なりの表現を増やすことができている。これらの教材の蓄積は来年度の授業に大変役に立つものである。

#### (2) 単元構成の見直し～課題(タスク)解決と基礎基本の定着を両立させるために～

発展クラスで、課題(タスク)解決形式の授業を推進する一方、基礎基本を反復練習する時間が少なくなっている。発展を希望する生徒にとっても、やはり基礎基本の反復練習は発展学習をする上でも不可欠な要素である。単元構成の中で必ず位置付けていかななくてはならない。

#### (3) 年間計画の見直し

それぞれのワークシートに評価規準をつけているが、内容がやや場当たりのになっている。発展クラスの課題(タスク)に関しても、実践の中で発想されたものが多い。今年度の教材と、年間を見通した指導と評価の計画をあらためて考え、評価規準の加えられた見通しのある年間計画を作成する必要がある。

#### (4) 基礎基本の定着、表現の質の向上の検証

これらの教材を授業で活用した結果、生徒に学力がどれだけ定着したか、または学力の質がどれだけ高まったかを検証する必要がある。

### 2 2年生での、Hop, Step, Jumpの3コースによる習熟度別指導

英語は、積み上げ教科であり、学年が進むとともに習熟度で差が付きやすいという問題点があった。習熟度別学級を設けることにより、その教科が苦手な生徒にとってもわかりやすい「補充的な指導」、高い能力をもつ生徒にとっても満足いく「発展的な指導」を展開するなど、生徒の習熟に応じた必要な学力を身につけさせることをねらいとする。本年度はホップ(Hop)、ステップ(Step)、ジャンプ(Jump)と3つの習熟度別学級を設け、それぞれの指導方針を下記の通りに決め、生徒の学力向上に結びつけることを考えた。事前に生徒にアンケートを取り、原則的に生徒の希望で習熟度別コースを決定させた。5/6に開設して2週間は「お試し期間」としてコースの移動を認めたが、その後の移動は原則として認めない方針で臨んだ。

項目	Hop Course (基礎クラス)	Step Course (補充クラス)	Jump Course (発展クラス)
目標学力	「十日町中の目標学力」 = 「B学力」の概ね満足できる獲得(達成度50%以上)		



	B 学力の 5 0 % 獲得	B 学力の 5 0 % ~ 7 5 % 獲得	B 学力の 7 5 % ~
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる喜びを実感させる。</li> <li>・単元の文法事項を反復練習をさせながら確実に理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通じる楽しさを実感させる。</li> <li>・単元の文法事項を実践的な運用段階まで習得させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い表現やコミュニケーションを学ぶ楽しさを実感させる。</li> <li>・単元の文法事項や既習事項を用いて、ある課題(タスク)を解決させる。</li> </ul>
単元の基本単位	教科書の 1 レッスン	教科書の 1 レッスン	教科書の 1 レッスン (他の題材と複合させる場合も)
テスト/評価	テスト、評価規準とも共通したもので行う。		
単元構成	文法事項獲得のプロセスによる。	文法事項獲得～運用のプロセスによる。	課題(タスク)を段階的に解決させるプロセスによる。
文法事項・新出単語	ワークシートを用いて、理解をしてから、反復練習をしながら身につけさせる。	ワークシートを用いて、理解をし、文法を実践的に運用できる段階まで練習をする。	課題(タスク)を解決していく中で、使いながら身につけさせる。
教科書本文	日本語と比べながら、絵を用いて内容を把握。音読練習の後、本文についての T - F。	日本語と比べながら、内容を把握。音読練習の後、本文について英問英答。	英問英答用の教材、課題(タスク)解決のための資料として活用する。
クラスルームイングリッシュ	指示等、2 割程度は英語で	指示等、3 割程度は英語で	指示、説明等、8 割程度は英語で
「聞くこと」の質	反復練習に使用した表現の聞き取り	反復練習～限定された自己表現の聞き取り	予測できない内容の聞き取り
「話すこと」の質	反復練習	反復練習～限定された自己表現	限定されない自己表現
「読むこと」の質	単語、本文の音読 T F がわかる	単語、本文の音読 簡単な英問に答えられる	本文内容の読みとり 自分の考えを持ちながら読む
「書くこと」の質	反復練習	反復練習～限定された自己表現	限定されない自己表現
A L T の役割	英語を話す意欲を向上させる役割、正しい発音等の見本	英語を話す意欲を向上させる役割、正しい発音等の見本	自己表現アドバイザー的な役割
教材、ワークシートに求められること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が反復練習しやすい、例文がたくさんある。</li> <li>・復習のコーナーがある。</li> <li>・新出文法がスモールステップで進む。</li> <li>・限定された自己表現コーナーがある。</li> <li>・意欲を促す評価基準が明示してある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出文法がスモールステップで進む。</li> <li>・限定された自己表現コーナーがある。</li> <li>・インタビュー形式の実践的な活動ができる。</li> <li>・意欲を促す評価基準が明示してある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題(タスク)解決に必要な説明、ルール等が明示。</li> <li>・自分の発想で、場合によっては辞書を用いながら進む自己表現コーナーがある。</li> <li>・質を高める評価基準が明示してある。</li> </ul>

### 3 各コースの生徒の実態

#### 【Hop Course ( 19名 )】

##### ( 1 ) 英語の授業、コミュニケーションへの関心・意欲・態度

実力テストでの「意欲」問題に0点の生徒が3名いることでわかるように、英語の学習にあまり意欲が感じられない生徒が若干名いる。その反面、表現力、理解力にあまり高い点数を取ることのできない生徒の中でも「わかりたい」「頑張りたい」という意欲のある生徒も多いことも今回の結果からわかる。教師の発問に対する反応がよく、全体での音読練習の音量も大きい。面接でのコミュニケーションテストにおいてはどの生徒も意欲的であり「話したい」という意欲は成績に関わらずまだ大きな英語学習への動機付けになるようである。

##### ( 2 ) 理解の能力

「聞くこと」に関しては、実力テストの結果を見ると、この段階ではあまり差がないことがわかる。コースを開設したばかりなので授業における成果と課題について明らかにはできない。本単元においては、「本文の音読」、「本文を何度も聞かせる活動」、「本文のTF」などを通して聞く力を高める手だてを続けていきたい。「読むこと」(単語や文法を理解し、基本的な英文を読みとる能力)に関しては、授業中の本文読みとりの様子を見る限り、全体的に英問を理解し、英語で答えることはかなり困難な様子である。数名の生徒は本文を音読することが困難で英文にすべてカタカナをふらないと読めない。机間巡視をしながら個別指導をしたり、発言を依頼する際にも配慮が必要である。

##### ( 3 ) 表現の能力

「書くこと」による表現の能力は、実力テストの結果においてはやや差があることがわかる。書くことによる自己表現の練習の足りない生徒が多い。本単元でもワークシートを用いて、自分の生活に関わる(家族、部活など)自己表現を定着させていきたい。「話すこと」による表現の能力に関しては、「コミュニケーションテスト」の活動を見る限り、初歩的な英語(Do you like ~? 等)を用いたコミュニケーションは可能である。「話すこと」への意欲を感じる生徒が多いので、反復練習をする中で、少しずつ使える文法を増やしていきたい。

##### ( 4 ) 外国語や外国文化に関する知識・理解

外国文化、そのものに関する興味・関心は必ずしも低くはない。外国文化に関わる話を時には取り入れる中で知識を増やしていきたい。1年生の文法から理解できない生徒が多く、ワークシートを用いて、1年次に習った基本的な動詞、形容詞、単語を復習させ、例文をたくさん反復練習をさせることで知識の定着を図りたい。単語理解に関しては「単語ビンゴ」を活用する等、単調な反復練習にならないように配慮したい。

#### 【Step Course ( 34名 )】

##### ( 1 ) 英語の授業、コミュニケーションへの関心・意欲・態度：

5月に実施した「実力テスト」の結果を本校英語科のカッティングポイントで見ると、A(71%) B(11%) C(18%)という結果であった。テストの内容にもよるが、大半の生徒は英語への関心をもち意欲的である。反面、約2割近い生徒が意欲に欠けることになるが、実際の授業では「しっかりと課題」を設定して、やり方を説明してやると意欲的に参加する。「関心・意欲」の面は、数値ではなかなか表しにくい。だから余計にふだんの授業での見取りをしっかりと行い、意欲を持続するような評価を行っていく必要がある。

##### ( 2 ) 理解の能力

「聞くこと」に関しては、実力テストの結果を見ると、A(5%)、B(65%)、C(30%)である。実力テストに使用した教材のスピードはナチュラルスピードで生徒には速すぎた傾向にあった。ふだんの授業ではCDを使って本文の内容を真偽するTFテストや内容を問うQ&Aを時折行っている。「耳を慣らし、英語の耳を作る」ために1年時に使用した教科書を授業開始3分間ショートリスニングとして導入している。

「読む理解」に関しては、個人差がかなりある。すらすら読める生徒と単語に読み方をふって、何度も練習してやっと読める生徒に分かれる。単語の意味を確認する 新出単語を徹底的に読めるようになる 本文の中に読めない単語を拾い出し調べる 声に出して読む 本文を読む プリントを配布し読み方を練習する 本文を読む もう一度新出単語を、という繰り返しを行っている。全体の読みから、ペアでの読み、個人の読みを行う。その際机間指導を行い、つまづいている箇所を指導する。

内容を読む活動では、読みとるポイントを示し、大意をつかませる。細部への読みとりは最初から行わない。

### (3) 表現の能力

「書くこと」に関しては、A(33%) B(47%) C(20%)という割合になっている。ほとんどの生徒が和英・英和辞典を持っている。辞書指導を1年時におこなったので引くことに抵抗はない。

単元ごとに配布されるプリントに「My English」という覧があり、自分で語彙数を増やしていく生徒もいる。単元の文法事項を学校行事や日常生活とからめて表現する場を設定している。

「話すこと」に関しては、ALTと1対1で行うスピーキングテストを実施している。簡単な日常の会話を盛り込んだ表現活動に生徒は緊張するが、生き生きとした表情で取り組んでいる。

また「話す」活動を支えるものとして、「音読」の練習に重点を置いている。短い英文を大きな声を出して読む。少しずつ英文の量を多くしていく。読みながら自然に日本語の訳が浮かんでくる。そして、音読をしながら英文をノートに移す訓練を行っている。「話すこと」を支えるのは「音読」にある。

### (4) 外国語や外国文化に関する知識・理解

3名のALTが来ているせいか、外国文化に関して興味・関心を持っている。特に外国の歌や外国の映画に関しての情報は早い。外国の習慣や文化のちがいを等についての認識がやすい。英語という外国語を通してそこに生きるさまざまな人間のもつ考え方に触れ、互いに尊重しあう態度を育てていきたい。

授業には必ず1年生の教科書を参考にしながら、2年時の授業を進めている。記憶が蘇り、さらに定着に役立っている。ターゲットセンテンスを確実に定着させ、文の構成の定着を図りたい。単語理解に関しては「単語ビンゴ」等のゲーム方式で、単調な反復練習にならないようにしたい。

## 【Jump Course(33名)】

### (1) 英語の授業、コミュニケーションへの関心・意欲・態度

英語に対する関心・意欲が高い生徒がこのクラスには多い。それは、実力テストでの「意欲」に関する問題でほぼ全ての生徒がAの評価を受けていることから伺える。しかし、テスト後にとったアンケートから、関心が「会話」に向いている生徒、「文法理解」に向いている生徒、「友人にテストで勝ちたい」と思っている生徒が主にいることがわかった。英語そのものに対する関心は高いので授業を受けようとする意欲は感じられ、教師の発問に対しての反応も良い。また、全体やペアを組んでの音読練習にも積極的に取り組んでいる。しかし、英語のどこに関心を持っているかによって、評価の方法を気にしている生徒もいる。具体的には、「会話テストを増やして欲しい」「難しい文法のテストをして欲しい」「辞書を持ち込み、自由に表現できるテストがいい」といった要望がある。どの生徒も英語学習への関心は高く、「英語を使えるようになりたい」という願いは同じようである。

## (2) 理解の能力

「聞くこと」に関しては、実力テストの結果ではほぼ全ての生徒が5割以上の正答率であった。ジャンプコースを開設したばかりなので、この結果が授業における成果と課題にどう関係するか明らかにはできない。しかし、これまでの学習の中で、「ALTのスピーチを聞き取り、その内容について答える」という活動を何度か取り入れてきた。その活動では、スピーチの大意をつかむことのできた生徒が多くいた。本単元では「本文の音読」「本文の聞き取り」「本文の聞き取りによるQ&A」に加え、「友人のスピーチを聞き取る」活動などを通して聞く力を高める手立てを続けていきたい。「読むこと」(単語や文法を理解し、基本的な英文を読み取る能力)に関しては、授業中に教科書の新出単語のみを全体で確認し、その後すぐに本文のQ&Aの内容を類推しながら解く活動を行っている。活動中の生徒の様子を見る限りでは、全体的に教科書本文の大意を理解し、英語で解答することができているようである。本単元では、生徒が作成した予定表を読み取り、その内容を検討するという活動を通して読む力を高める手だてとしたい。

## (3) 表現の能力

「書くこと」による表現の能力を高める手だてとして、教科書L1&2を複合単元とした学習の中で日記を英語で書く活動を行ってきた。はじめは箇条書きのような文章しか書けなかった生徒も、学習を進めるうちにbecauseやand, but, soなどつなぎ言葉を使ってまとまりのある英文を書けるようになった。また、辞書を用いて学習を進めたので、自分のこと(家族、部活、趣味など)に関する英語表現を身に付けた生徒もいた。さらに、実力テストでは「花見」に関することについて表現する問題を出したところ、自分の体験や授業で学習したことなどを辞書を用いてたくさん書いていた。本単元では十日町旅行プランを作成するという活動を通し、「身の回りに関すること」について表現できる能力を高めていきたい。「話すこと」のよる表現に関しては、「コミュニケーションテスト」の活動を見る限り、初歩的な英語に限らず、過去の出来事について表現できる生徒も約半数ほどいた。「話すこと」に対する意欲はクラス全体が高く、ALTに積極的に話し掛ける生徒も多い。授業で学習した内容を「使える」段階まで高め、少しずつ会話の質を高めることができるようにしていきたい。

## (4) 外国語や外国文化に関する知識・理解

外国語や外国文化そのものに関する興味・関心は高いと感じられる。それはALTとの会話や授業中の外国文化に関わる話の中で、生徒の態度として表れている。文法理解に関しては、理解度が高く既習事項も少し復習をすれば思い出すことができる。しかし、日本語の感覚で英文を作ろうとする生徒が多いため、主語が抜け落ちていたり、語順が正しくなかったりといったミスがしばしば見受けられる。授業中には、日本語と英語の文法の違いを何度か説明することで文法理解を図ってきた。単語に関しては、英単語テストの結果を見る限りにおいては、ほぼ全ての生徒が必要な知識を身に付けていると考えられる。単語の正しい発音に関しても授業中の反復練習である程度身に付けているようである。まとまった英文として英語を発音できるよう、ALTを交えた会話練習や教科書本文のリーディングなどを通して2語以上の単語の音と音のつながりを高めることができるようにしていきたい。

## 4 ある単元における習熟度別学習指導の実態

(1) 単元名 「これからの予定」や「将来」を英語で語ろう！

～ will , be going to を用いて ～

題材名 : Lesson 4 Flight to the U.K. 飛行機の旅 (Total English Book 1)

## (2) 単元の目標

- ・ will, be going to を用いて、自分たちの「これからの予定」、「将来」について英語で相手に伝えたり、尋ねたりすることができる。

・ Lesson 4 本文を正しい発音で読み、本文内容に関する英問に英語で答えることができる。

(3) 本單元における「(最低限の)目標学力」(B学力の50%)

本單元における「(最低限の)目標学力」を次の5点に設定した。生徒にこれら5点の学力を確実に身につけた上で、自己表現活動をさせなければならない。

- will, be going toの意味を理解できる。will, be going toを含んだ英文の意味を理解できる
- will, be going toを含んだ英文(平叙文、疑問文、否定文)を文法的に理解できる
- will, be going toを含んだ英文を、様々な動詞に置き換えて読み、書き、話すことができる。
- 教科書Les.4の新出単語を正しく発音でき、意味がわかる。太文字単語は書ける。
- 教科書Les.4の本文を正しい発音で読むことができる。本文の大意がわかる。

(4) 單元全体の指導計画(全10時間)

時間	生徒の学習内容 ・ 生徒の学習活動		
	Hop Course	Step Course	Jump Course
1 (本時)	単元ミニオリエンテーション ・単元の目標を理解する。 ----- willを用いて「これからの予定」を英語で言う。 ・willの文法をまとめる。 ・willのパターン練習をする ・willを用いた自己表現をする (自ら学ぶ)	単元ミニオリエンテーション ・単元の目標を理解する。 ----- willを用いて「これからの予定」を英語で言う。 ・willの文法をまとめる。 ・willを用いた自己表現をする (自ら学ぶ) ・友達の表現から学ぶ。 (共に学ぶ)	単元ミニオリエンテーション ・単元の目標を理解する。 ----- willを用いて「これからの予定」を英語で言う。 ・willの文法をまとめる。 ・willを用いた自己表現をする。 (自ら学ぶ) ・友達の表現から学ぶ。 (共に学ぶ) ・You will ~.を用いて相手の予定を考える。 (自ら学ぶ)
	2	本文Aの理解 ・新出語句を理解する ・本文を読む ・TFを行う	本文Aの理解 ・新出語句を理解する ・本文を読む ・Q&Aを行う
3	Will you ~?を用いて「これからの予定」を英語で尋ねたり、Yes, I will./No, I won't.を用いて相手からの質問に答える。 ・Will youの文法をまとめる。 ・Will youのパターン練習 ・Will youを用いた自己表現をする。(自ら学ぶ)	Will you ~?を用いて「これからの予定」を英語で尋ねたり、Yes, I will./No, I won't.を用いて相手からの質問に答える。 ・Will youの文法をまとめる。 ・Will youを用いた自己表現、インタビュー活動をする。(自ら学ぶ) ・友達の表現から学ぶ。 (共に学ぶ)	旅行のプランを作成する。 ・You will ~. We will ~.を用いて英文を作成する。 ・既習の文法事項や表現を用いて相手にわかりやすい文章にする。 ・作成した英文の読み練習をする。 ・自分で使える単語や表現を増やす。
	4	本文Bの理解 ・新出語句を理解する ・本文を読む ・Q&Aを行う	本文Bの理解 ・新出語句を理解する ・本文を読む ・Q&Aを行う
5	be going toを用いて「予定されていること」を英語で言う。 ・be going toの文法まとめ。	be going toを用いて「予定されていること」を英語で言う。 ・be going toの文法まとめ。	本文Aの理解 ・新出語句を理解する ・本文を読む

6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ be going toパターン練習。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ be going toを用いた自己表現をする。(自ら学ぶ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q&amp;Aを行う</li> <li>・ グループごとに、自分の作成した英文を紹介しあう。</li> <li>・ 友人の英文を聞いて、その内容について英語で質問をする。</li> </ul>
	<p>本文Cの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出語句を理解する</li> <li>・ 本文を読む</li> <li>・ TFを行う</li> </ul>	<p>本文Cの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出語句を理解する</li> <li>・ 本文を読む</li> <li>・ Q&amp;Aを行う</li> </ul>	<p>本文Bの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出語句を理解する</li> <li>・ 本文を読む</li> <li>・ Q&amp;Aを行う</li> </ul>
7	<p>Are you going to~?を用いて相手に「予定」を尋ねたり、Yes, I am./No, I'm not.を用いて相手からの質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Are you going to~?の文法をまとめる</li> <li>・ Are you going to~?パターン練習をする(共に学ぶ)</li> </ul>	<p>Are you going to~?を用いて相手に「予定」を尋ねたり、Yes, I am./No, I'm not.を用いて相手からの質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Are you going to~?の文法をまとめる</li> <li>・ Are you going to~?を用いたインタビュードリルをする。(共に学ぶ)</li> </ul>	<p>本文Cの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出語句を理解する</li> <li>・ 本文を読む</li> <li>・ Q&amp;Aを行う</li> </ul> <p>Are you going to~?を用いて相手に「予定」を尋ねたり、Yes, I am./No, I'm not.を用いて相手からの質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Are you going to~?の文法をまとめる</li> </ul>
	<p>本文Dの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出語句を理解する</li> <li>・ 本文を読む</li> <li>・ TFを行う</li> </ul>	<p>本文Dの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出語句を理解する</li> <li>・ 本文を読む</li> <li>・ Q&amp;Aを行う</li> </ul>	<p>Are you going to~?を用いて相手に「予定」を尋ねたり、Yes, I am./No, I'm not.を用いて相手からの質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Are you going to~?の文法をまとめる</li> </ul> <p>・ グループごとに、自分の作成した英文を紹介しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友人の英文を聞いて、その内容について英語で質問をする。</li> </ul> <p>本文Dの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出語句を理解する</li> <li>・ 本文を読む</li> <li>・ Q&amp;Aを行う</li> </ul>
9	<p>コミュニケーション&amp;リーディングテストの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手にわかりやすいように、正しい発音、適切なスピード、音量で話す練習をする。簡単な質問に答えられるようにする(自ら学ぶ)</li> </ul>	<p>コミュニケーション&amp;リーディングテストの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手にわかりやすいように、正しい発音、適切なスピード、音量で話す練習をする。簡単な質問に答えられるようにする(自ら学ぶ)</li> </ul>	<p>コミュニケーション&amp;リーディングテストの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手にわかりやすいように、正しい発音、適切なスピード、音量で話す練習をする。簡単な質問に答えられるようにする(自ら学ぶ)</li> </ul>
10	<p>コミュニケーション&amp;リーディングテスト(個別)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人でLesson 4の本文の1~3の中で1つを音読する。</li> <li>文法テスト(一斉)</li> </ul>	<p>コミュニケーション&amp;リーディングテスト(個別)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人でLesson 4の本文の1~3の中で1つを音読する。</li> <li>文法テスト(一斉)</li> </ul>	<p>コミュニケーション&amp;リーディングテスト(個別)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人でLesson 4の本文の1~3の中で1つを音読する。</li> <li>文法テスト(一斉)</li> </ul>

(5) 単元全体の評価

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・「これからの予定」、「将来」のことを英語でたくさん伝えようとする。
  - ・「これからの予定」、「将来」への質問に、誤りをおそれず答えようとする。
- 表現の能力
- ・「これからの予定」、「将来」についてwill, be going to を用いて適切な英語で話したり、書いたりできる。
- 理解の能力
- ・「これからの予定」、「将来」についてやA L Tや友達によって話されたり、書かれたりした内容について理解し、内容に関する英語の質問に適切に答えることができる。
  - ・本文の内容を大まかに理解し、簡単な英語での質問に答えることができる。
- 外国語や外国文化についての知識・理解
- ・will, be going toを文法的に正確に理解する。
  - ・機内放送の表現、客室乗務員との会話表現、入国カードの英語、税関での係官との会話表現を理解する。

## 数学科の取組

### 1 第1年次の成果と課題

#### (1) 授業を充実させる教材、ワークシートの蓄積

数学科では、各教師に任せる部分が多く、十分であったとは言い難い。最低限教科書の例題はどのクラスも押さえたというのが正直なところである。今後の課題としたい。

#### (2) 習熟度別・少人数についてのアンケートの結果から

補充クラスでは「進度の速さ」や「内容の物足りなさ」を指摘したり、発展クラスでは「難しさ」を指摘したりする様子が見える。また、クラス別のテストで点数の分布をみると、同一クラス内の学力差も見られる。補充・発展の2コースという設定が適切であったかどうかを検討する必要がある。

また、生徒の希望をもとにクラス編成したわけであるが、コースの選択の方法が適切であったかどうかにも検討する必要がある。

#### (3) 単元構成、年間計画の見直しからという点から

単元全体を見通したり、年間を見通したりという点が不十分だった。2年次は、1年次の実践をもとにして、さらに充実させていく必要がある。

#### (4) 評価という点から

単元ごとの観点別評価規準表を作成し、生徒が「この単元ではどんなことを学べばよいのか」ということが明確になるようにした点では、生徒が見通しをもって学習を進められたてよかった。

しかし(3)で述べたように、やや場当たりに進めてきた点もあり、その評価規準が適切であったかということでは、今後の課題である。

### 2 2年生の習熟度別学級における指導の方針

数学は積み上げ教科であり、習熟度で差が付きやすいという問題点があった。習熟度別学級を設けることにより、その教科が苦手な生徒にとってもわかりやすい「補充的な指導」、高い能力をもつ生徒にとっても満足のいく「発展的な指導」を展開するなど、生徒の習熟に応じた必要な学力を身につけさせることをねらいとする。本年度はホップ、ステップ、ジャンプと3つの習熟度別学級を設け、それぞれの指導方針を下記の通りに決め、生徒の学力向上に結びつけることを考えた。事前に生徒にアンケートを取り、原則的に生徒の希望で習熟度別コースを決定させた。5月6日に開設して2週間は「試行期間」としてコースの移動を認

め、その後の移動は原則として認めない方針で行っている。

項目	ホップコース（基礎クラス）	ステップコース（補充クラス）	ジャンプコース(発展クラス)	
目標学力	「十日町中の目標学力」 = 「B 学力」の概ね満足できる獲得（達成度50%以上）			
	B 学力の獲得	B 学力の獲得	B 学力～C 学力の獲得	
指導方針	わかる喜びを実感させる。既習内容の復習（小学校や前単元）を多く取り入れ、具体物の操作を中心として概念形成と定着させる。	わかる楽しさを実感させる。基礎・基本を確実に身につけさせる。	自ら課題を見つけ考える問題解決的な学習を中心とし、数理的に考察する力身につけさせる。	
単元の基本単位	教科書の単元			
テスト/評価	テスト、評価規準とも共通したもので行う。			
単元構成	単元の基本構成			
	ホップ	概念形成・獲得 （具体性大）	定着・習熟 （基礎・基本）	まとめ・応用 ・発展
	ステップ	概念形成・獲得 （具体性中）	定着・習熟 （基礎・基本）	まとめ・応用・発展
	ジャンプ	概念形成・獲得 （抽象）	定着・習熟 （基礎・基本）	まとめ・応用・発展
共通課題の扱いについて	ホップ	補助教材	共通課題	
	ステップ	補助教材	共通課題	類題
	ジャンプ		共通課題	発展課題
	<p>各コースとも共通課題を設け、その課題についての扱いを変える方式をとる。ホップコースは共通課題をにつなげるための補助課題を取り入れる。ステップコースは共通課題を補強するものとして類題を設定する。ジャンプは共通課題を一般化・拡張した発展課題を設定する。</p>			



### 3 各コースの生徒の実態

#### 【ホップコース(23名)】

##### (1) 数学への関心・意欲・態度

授業の開始と同時に、すぐに学習に意識が向く生徒は少ない。背景として、数学の問題を自分の力で解けたときのうれしさや、数学の知識、処理の手順を覚えることの楽しさを味わったことが少ないためと思われる。授業の導入時に前次まで学習した基礎・基本事項を確認すること、また授業では何を学習するかを生徒に伝えることで、学習に取り組む意欲をもたせる。

##### (2) 数学的な見方・考え方

5月26日実施の実力テストの文章問題をみると18人の生徒が未回答であった。今までの既習事項の定着がないために、自らの発想で既習事項を利用することができないと考えられる。既習事項の利用のしかたがわかりやすい補助課題を意識して作成し、共通課題へつなげいく。操作活動を多く行い、数学的な見方や考え方の力を身につけさせる。

##### (3) 数学的な表現・処理

5月21日実施の計算力テストの結果をみると80点以上の生徒が13人、50点以上80点未満の生徒が2人、50点未満の生徒が8人となっている。50点未満の生徒を分析すると正負の符号の間違いと小数、分数の計算間違いが多くみられた。連立方程式の加減法では、1つの文字を消去するときに、どんなときに加法でどんなときに減法になるのかを正負の符号を意識させながら指導する。また、1次関数ではグラフ、表、関数式を対比させながら、関数式の意味を理解し、変化の割合、変域の求め方を理解させる。

##### (4) 数量・図形などについての知識・理解

基本的な用語や解法の手順は時間をかければ理解できる生徒が多い。個別指導や書き込み方式のワークシートを使って理解させる。

#### 【ステップコース(32名)】

##### (1) 数学への関心・意欲・態度

クラスを自己選択することにより、学習への取組は積極的になってきている。個々の生徒の達成度のばらつきは小さいが、授業の様子や定期テスト・実力テストの結果をみると、数名の生徒については配慮していく必要がある。数と式の領域においては式の計算、連立方程式の解き方に関心を持ち、すすんで課題を解決しようとする姿勢がうかがえる。探求的な姿勢で取り組むとさらに学力の向上が期待できる。

##### (2) 数学的な見方や考え方

授業時、課題に対して自分から発想や考えをだすことが苦手な生徒が多い。数学的活動を通して数量、図形などについての基礎的な知識と技能を身に付けさせ、それらを活用しながら数学的な見方、考え方を育てていきたい。

##### (3) 数学的な表現・処理

実力テストの結果をみると文字を用いた四則計算は比較的達成度が高くなっている。さらに、数量の関係などを方程式を用いて表現・処理したり、図形の性質について推論の筋道を簡潔に表現したり、数量関係を的確に表現したり数理的に処理したりする力を高めていきたい。

##### (4) 数量・図形などについての知識・理解

基本的な用語や意味・性質などは理解できる生徒が多い。継続的に評価・個別指導を行い、数量・

図形などに関する基礎的な概念や法則などについて理解させ、知識を身に付けられるようにしていく。

#### 【ジャンプコース(31名)】

##### (1) 数学への関心・意欲・態度

学習への取組は全体的に積極的である。個々の生徒の達成度も高く、授業の様子や実力テストの結果をみると、さらに発展的な課題に取り組んでいくだけの力をもっていることがわかる。2元1次方程式の意味やその解に関心をもちながら、連立方程式の意味やその解・解き方につなげ、それを利用した発展的・問題解決的な学習に取り組んでいく姿勢を身につけさせる。

##### (2) 数学的な見方や考え方

授業の様子をみていると、与えられた問題に対して答えをだすだけでなく、積極的に自らの発想や考えをだす生徒もいる。具体的な事象の中から、連立方程式で表すことのできる事象を見だし、2元1次方程式を連立させることの意味や連立方程式の解の意味を積極的に考察させる。

##### (3) 数学的な表現・処理

実力テストの結果をみると表現・処理については全体的に達成度が高い。連立方程式を加減法や代入法で解くことや、その過程で2元1次方程式の1つの文字に値を代入してもう1つの文字の値を求めることを定着させ、さらに発展的な問題を適切な解法で計算できるようにさせる。

##### (4) 数量・図形などについての知識・理解

基本的な用語や解法の手順はほとんどの生徒が理解している。2元1次方程式とその解の意味や連立方程式とその解の意味を考えながら、連立方程式の加減法・代入法での解く手順やそれを利用した問題の解き方を身に付け、発展的な問題への利用方法を理解させる。

#### 4 ある単元における習熟度別学習指導の実態

##### (1) 単元名 2章 連立方程式

題材名：連立方程式の利用

##### (2) 単元の目標

- ・2元1次方程式やこれらを連立させた方程式を解くことの意味を知り、また方程式の解法について知る。
- ・連立方程式を、実際の問題解決に利用することができる。

##### (3) 本単元における「(最低限)目標学力」

数学への関心・意欲・態度

日常事象で2つの文字を用いて連立方程式に表そうとしている。

数学的な見方・考え方

具体的な事象の中から連立方程式に表すことのできる事象を見いだすことができる。

表現・処理

加減法や代入法を用いて、連立方程式を解くことができる。

数量、図形などについての知識・理解

連立方程式とその解の意味を理解する。

##### (4) 単元全体の指導計画

連立方程式(全13時間)

次	題 材	学習内容	目的意識	ホップ	ステップ	ジャンプ
1	連立方程式とその解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2元1次方程式の意味</li> <li>・ 連立方程式の意味</li> <li>・ 連立方程式の解とそれを解くことの意味</li> </ul>	1次方程式と2元1次方程式はどこが違うのだろうか。	2	1.5	1
2	連立方程式の解き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加減法の意味</li> <li>・ 文字の消去の意味</li> <li>・ 加減法による連立方程式の解き方</li> <li>・ 代入法による連立方程式の解き方</li> <li>・ 小数や分数を係数にもつ連立方程式の解き方</li> </ul>	連立方程式はどうやって解けばよいのだろうか。	7	6.5	6
3	連立方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決に連立方程式を使うこと</li> <li>・ いろいろな問題例とその立式における考え方</li> </ul>	具体的な問題を方程式で解いてみよう。	3 (本時1/3)	4 (本時1/4)	4 (本時1/4)
4	基本問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補充と発展</li> </ul>	連立方程式を振り返ってみよう。	1	1	2

#### (5) 単元全体の評価

##### 数学への関心・意欲・態度

- ・ 文字を2つ用いると数量の関係が式に表現しやすいことに気づき、具体的な問題の解決に連立方程式を利用しようとしている。

##### 数学的な見方・考え方

- ・ 文字を2つ含む連立方程式から文字を1つ含む方程式を導く方法を考えることができる。
- ・ 具体的な事象の中から、連立方程式で表せる事象を見つけることができる。

##### 数学的な表現・処理

- ・ 加減法や代入法を用いて、連立方程式を解くことができる。

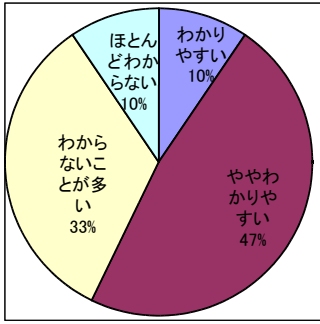
##### 数量・図形などについての知識・理解

- ・ 2元1次方程式、連立方程式とその解の意味がわかる。

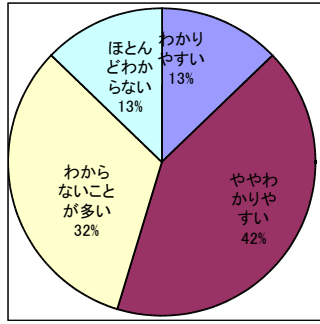
5 習熟度別学習アンケート結果分析（平成15年9月4日実施）

(1) 授業のわかりやすさ

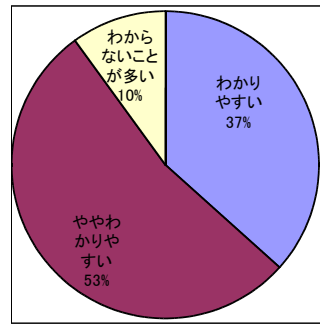
Hop Course



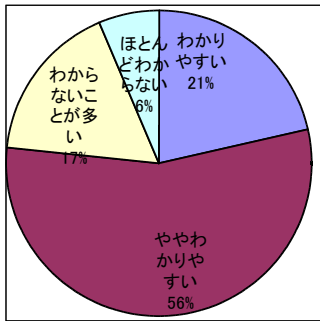
Step Course



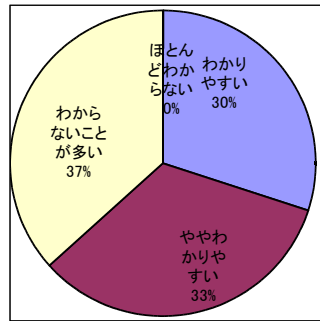
Jump Course



昨年度 補充 Course

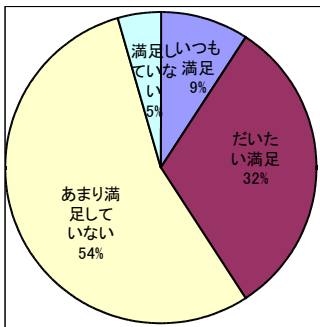


昨年度 発展 Course

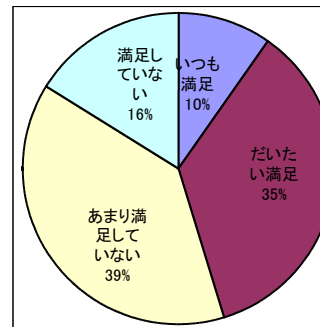


(2) 授業の満足度

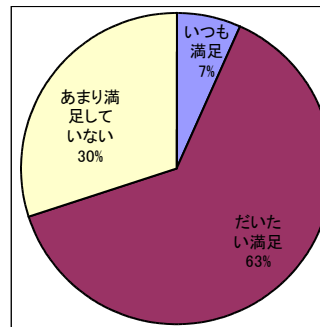
Hop Course



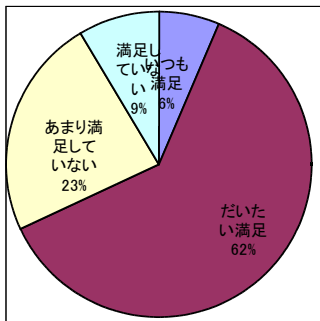
Step Course



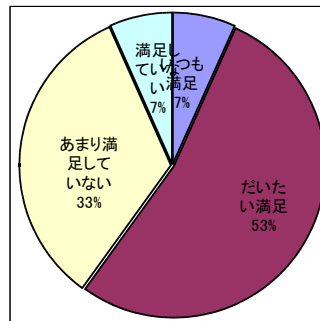
Jump Course



昨年度 補充 Course

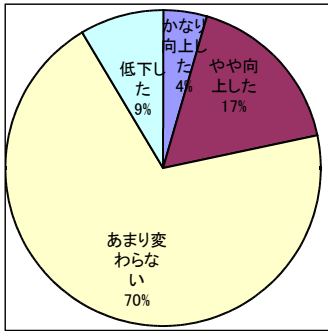


昨年度 発展 Course

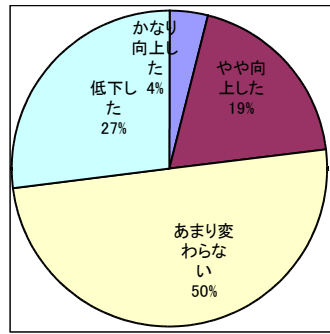


( 3 ) 学力の向上

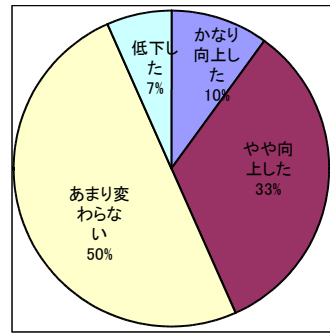
Hop Course



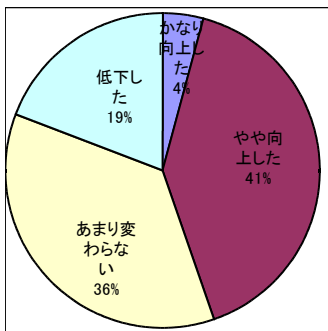
Step Course



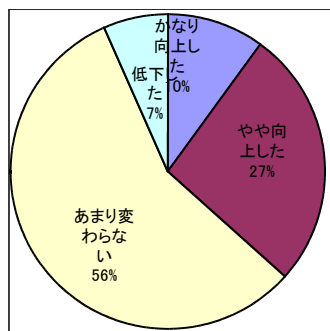
Jump Course



昨年度 補充 Course



昨年度 発展 Course



6 標準学力テストの領域別学力偏差の分析

現1年生(全国=100)

領域	1年時	2年時	3年時
数と式	101		
図形	111		
数量関係	111		

5段階

	1	2	3	4	5
人数	0	17	35	31	5
%	0	19	40	35	6

現2年生(全国=100)

領域	1年時	2年時	3年時
数と式	87	98	
図形	99	83	
数量関係	90	86	

5段階

	1	2	3	4	5
人数	4	30	53	15	1
%	4	29	51	15	1

現3年生(全国=100)

領域	1年時	2年時	3年時
数と式	63	91	104
図形	93	84	98
数量関係	82	85	92

5段階

	1	2	3	4	5
人数	7	23	39	28	6
%	7	22	38	27	6

7 中教研調査問題分析によるABC学力分野達成率(%小数点以下切り捨て)

教科名	学年		A学力	B学力	C学力	全体	傾向と今後の対策
数	2年	十中	86	70	54	73	分数の乗除の計算力が弱い。作図の仕方や対称についての知識理解が弱い。反比例の表、グラフ、式の間係を理 解していない。授業の中で確認していく。
		県平均	79	67	42	69	
学	3年	十中	83	69	42	71	文字式の使って数の性質を証明する力が弱い。三角形の 合同や二等辺三角形の性質を用いて証明できる力が弱い。 証明を扱う授業では思考する時間を確保し行う。
		県平均	79	68	45	69	

8 成果と課題

(1) 3コースにした習熟度別指導の工夫から

どのコースも授業で取り扱う共通課題を今年度は設定した。その結果、3コースの指導法の違いが明確になってきた。ホップでは操作活動やワークシートを用いて共通課題を理解することに授業の力点が置かれ、ステップでは共通課題の定着を図るために類題をあつかう場面が多くなる。ジャンプでは共通課題が導入課題になり、それを踏まえた形での発展問題をあつかうことが多い。

共通課題の決め方については週一回の数学部会で話し合って決めることになっている。数学主任の方で教科書の例題をもとに数字を変えて各部員へ提案し、課題の扱いは各部員に任せている。数学部会で十分な時間がとれないため、各コースの共通課題の扱い方の情報交換までできないことがある。どこかでしっかりと時間をとり、共通課題の良し悪しや指導の違いを検討することが今後の課題である。

(2) 習熟度別・少人数についてのアンケートの結果から

習熟度別アンケートをみるとどのクラスでも「授業のわかりやすさ」ではどのコースも50%を越えている。しかし、「授業の満足度」ではジャンプが70%で一番高いが、ホップ、ステップとも50%を割っている。自分のレベルにあっていると考える一方で、他クラスとの進度の遅れが気になったり、成績に結果が反映しなかったりすることがホップ、ステップが50%を割る原因だと思われる。指導法(クラスの雰囲気作り、話す早さ、板書の工夫、ワークシートの構成など)をさらに工夫していく必要がある。

(3) 単元、領域に応じたコースの再編成

1学期を通じてホップ、ステップの中に着実に学力をつけた生徒が出てきた。1学期テストで見ると同じコース内でも学力差がついてきている。また、計算は得意であるが図形になると苦手な生徒や逆に図形が得意で計算が苦手な生徒もいる。昨年度以来、コース間の移動は特例を除き認めていなかったが、来年度はもう少し柔軟に考え、通年で同一コースでなく、単元ごとにコースの再編成したり、学期ごと、または領域ごとに再編成することを検討したい。

(4) 評価という点から

単元ごとの観点別評価規準表を作成し、生徒が「この単元ではどんなことを学ばよいか」ということが明確になるようにした点では、生徒が見通しをもって学習を進められたという点でよかった。

昨年度は評価の観点をすべて均等にして評定を出していた。今年度は領域の特性やテストに占める評価の観点の比率を考え、観点の評価の比率を変えて評定を出した。テストと評価の相関関係が強くなり、生徒のとってもわかりやすい評定になったと思われる。

( 5 ) 学力という点から

標準学力テストの結果を見ると現3年生については「数と式」は100を上回ったが、「図形」「数量関係」が100を下回った。しかしながら、昨年度よりどの領域も数値が上回っており、昨年度の教材の開発の成果と考えられる。5段階でみると2の生徒が少なくなり4、5の生徒が増え、ほぼ正規分布と同じ割合になった。現2年生は「数と式」「図形」「数量関係」のどの領域も全国比100を下回っている。昨年度と比較すると「数と式」は昨年度より向上したものの「図形」「数量関係」は下回っている。5段階でみると4、5の生徒が減り3の生徒がかなり増えている。3の生徒を4、5に上げるために「図形」「数量関係」1年生の復習を織り交ぜながら授業を進める必要がある。1年生における「図形」「数量関係」の単元構成の見直しと指導法の改善を図りたい。今年度の学力については1学期定期テストと2学期定期テストの比較分析を行い今年度のまとめに記載したい。

また、県中教研の調査問題では2年生はA学力、B学力、C学力ともに県平均を上回っている。3年生ではA学力、B学力で県平均を上回っている。今後、客観的な学力を推し量るどのテストでも平均を上回っているように、習熟度別授業における指導法を今後も改善していかなければならない。